

# 県内重要課題で高瀬菜穂子委員が論戦

3月11日から26日の日程で予算特別委員会が開催。日本共産党からは、高瀬菜穂子議員が委員に就任。総務費、保健費、農林水産費、県土整備費、教育費の各項目で質疑を行いました。

Report  
02

## メガソーラー林地開発業者に対する甘い対応を批判

近隣住民とのトラブルが絶えない、飯塚市白旗山のメガソーラーのための林地開発について、昨年9月、飯塚市長は「事業者に対する指導、監督の徹底」を文書で知事に求め、農林水産部長名で「きめ細い調査、許可条件の遵守、地域住民に丁寧に説明」するよう指導すると約束しました。その後業者は、県が認めていない工程表を一方的に市と住民に送りつけたり、説明会を開かないなどの態度を続けています。

高瀬委員は、これまで違法行為を指摘しても法令違反と認めず、事実上業者をかばい続けてきた行政当局の姿勢を「県の甘い対応がこういう事態を招いた」と厳しく批判、「森林法10条の3の監督処分を厳正にやっていただきたい」と強く要望しました。



白旗山の開発地を調査する高瀬・立川両議員

## 出水期前に万全の体制を —河川管理と河川整備について要望

高瀬委員は、県管理ダムの出水期の事前放流について「国待ちではなく、市町村や関係者との認識の一致を図るなどの取り組みを進めよと求めました。また、遅れている河川整備計画を全水系で急ピッチに進めること、策定済みの河川については内容の精査、策定にあたっては流域協議会の設置など住民参加を視野に入れるよう要望しました。

あわせて、2020年度から創設される国の「緊急浚渫推進事業費」を活用し、県管理河川の浚渫を大規模に進めること、平時は市町村の支援を行い災害時に備える「長期派遣要員を確保する制度(交付税措置)」を利用して、技術職員の計画的な採用を進めよと求めました。



ゲートがなく上部に穴があいているだけで水量調整が困難な伊良原ダム



共産党提出意見書案

「後期高齢者医療制度の窓口負担を二割にしないことを求める」 共産党以外のすべての議員の反対で不採択になりました。

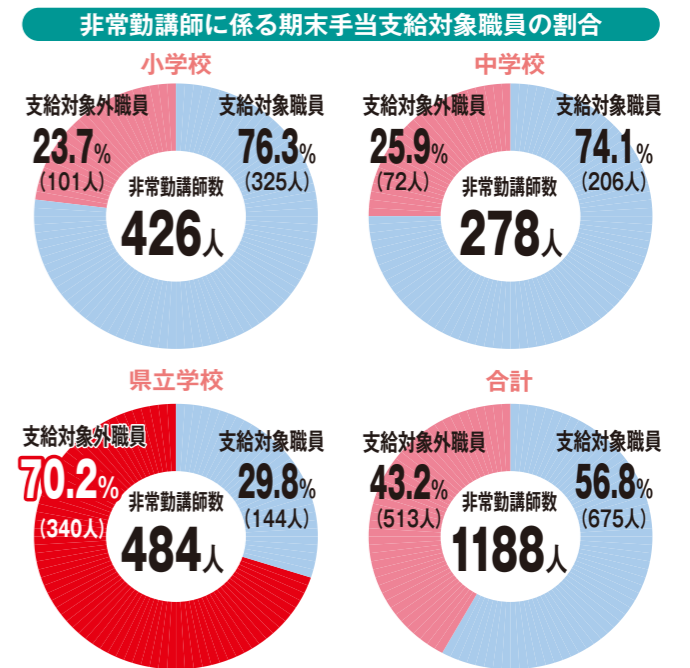
共産党が紹介議員となった新規請願 **全て継続審査になりました**

- ①「全ての子どもの医療費を義務教育まで助成し窓口負担をなくすことを求める」請願
- ②「教育格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育を求める」請願
- ③「消費税率を5%に引き下げ複数税率・インボイス制度の即時廃止を求める」請願

## 会計年度任用職員制度の導入で、非常勤講師に不利益にならない対応を

2020年度から導入される「会計年度任用職員制度」の対象に、非正規の教職員も含まれます。「不利益が生じないこと」と国会の付帯決議もされていますが、期末手当支給対象が週15時間30分勤務以上の勤務を要件としていることから、県立学校の非常勤講師の70%以上が対象外となります。特に芸術科目を教える教員の6割が非常勤講師であり、教員確保の観点から単価の引き上げや勤務時間の確保など、年収保障を求めました。

県教育委員会は、授業の実施や準備など学習活動に必要な業務について、勤務時間ができるだけ確保できるように工夫すると約束しました。



※平成30年5月1日現在 ※小学校、中学校：市町村立学校 ※県立学校：県立高等学校、県立中学校等 ※期末手当支給要件：週当たりの勤務時間が15時間30分以上、かつ任期が6月以上

## 国保「3年間の激変緩和」の約束守れず —納付金伸び率7.1%に1兆円規模の公費投入こそ

県は、国保の県単位化が始まった2018年度から3年間は激変緩和措置で、県への納付金を据え置くと約束していましたが、3年目の2020年度は、「国の交付金が大幅に減らされたため」調整がつかなくなったとして、平均7.1%引き上げを発表。多くの自治体で国保料(税)に影響が出ることが懸念されます。3400億円の公費投入は、法定外繰り入れの解消などに使われ、保険料の引き下げにつながっていないことを指摘し、全国知事会なども要求する1兆円規模の公費投入を国に強く求めるよう要望しました。



## 原点に戻って「JR九州による日田彦山線の自力復旧」を求めよ

2017年の九州北部豪雨で被災して以来3年近く不通が続く日田彦山線について、高瀬委員は、BRT(高速バス輸送システム)案を進める「JR九州の主張に道理はない」と批判、「最後は事業者の判断とする国の姿勢を変えさせるのは知事の責任」として、JR九州による鉄道での復旧を強く求めました。

### 「日田彦山線復旧問題に関する決議」を採択

「日田彦山線復旧問題に関する決議案」が提出されました。不通となっている日田彦山線の復旧のあり方をめぐり、添田町と東峰村の地域振興を長期的かつ安定的に継続させるため、基金新設等を県に求めるものです。全会一致で採択されました。